

「国際実践教育演習」タイ現地演習中!

Field Work in Sustainability International



タイ・ブーケットでの国際演習に8月20日 ICAS教員 1名、22日に茨城大学修士院生 12名と ICAS教員 3名が日本を出発しました。現地でラチャバット大学の修士院生 13名・教員 4名と合流し、マイカオ村の6軒の家にホームステイして、ウミガメ保護・植林・水田復活・廃棄物の4班に分かれて野外調査と夜間講義を行っています。マイカオ村では地元農民や漁民約20名の方々が調査に参加されています。演習中はタイ海軍からも3人が常駐しており、帰国は8月30日の予定です。

活動予定②「国内教育実践演習」大洗・洵沼

Field Work in Sustainability Domestic

現地演習 9月11日(金)、12日(土)、13日(日)
 演習協力 茨城県水産試験場、大洗町役場、NPO法人大洗海の大学、大洵沼漁協共同組合
 参加者 茨城大学大学院生、ICAS教員3名

活動予定① ICAS総括サステナフォーラム



ICASは科学技術振興財団(JST)育成期間の最終年度を迎えています。そこでこれまでの活動を報告し、ICAS各部門の成果を総括するためのサステナフォーラムを開催します。

日時: 9月8日(火) 13:30~17:00
 場所: 茨城大学水戸キャンパス
 環境リサーチラボラトリー棟遠隔講義室

◇ プログラム ◇

- I. 開会挨拶
- II. ICAS 機関長挨拶
- III. セッション
 第一部門、第二部門、第三部門、教育部門の成果報告
- V. 総合討論
- VI. 閉会挨拶

お問い合わせ ICAS 郡司真弓
 029-228-8787 arcione@mx.ibaraki.ac.jp

ICAS/IR3S Calendar

4月	新年度スタート 4/20~ ICAS 研究セミナー・開始 原則毎週月曜日 15:00~ (水戸 ICAS 本部) 4/24 茨城大学バイオ燃料社会プロジェクト・ワークショップ(水戸三の丸庁舎)	9月 9/4 ICAS年報 2009 発行 9/8 ICAS総括サステナフォーラム 9/11-13 国内演習(大洗・洵沼)
		10月 10/17 ICAS総括シンポジウム 茨城産業会議・茨城大学 共催シンポジウム(水戸三の丸ホテル) 10/20-21 第1部門海岸浸食と適応策の国際ワークショップ(茨城大学水戸キャンパス)
5月	5/1,25 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部) 5/19-21 IR3S/チンダルセンター 国際シンポジウム(英・イーストアングリア大学) 5/25 IR3S/豪大使館 日豪国際高等教育シンポジウム(オーストラリア大使館) 5/30 茨城大学地域貢献シンポジウム(水戸常陽藝文センター)	11月 11/ AIT 国際シンポジウム(アジア工科大学・タイ) 11/7-8 第5回国際学生会議(ISCUI5)(茨城大学インフォメーションセンター) 11/22-23 ICSS-Asia (アジア工科大学・タイ)
	6/8,15,22,29 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部) 6/10-12 IR3S/国際連合大学 教育シンポジウム(国連大学) 6/13 第1回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸キャンパス) 6/20 第2回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸キャンパス)	12月 12/11 バイオ燃料シンポジウム(仮称)(水戸) 第1部門ワークショップ(水戸) 12/19 IR3S 共通科目「サステナビリティ学最前線」
6月		1月 1/9 IR3S 共通科目「サステナビリティ学最前線」 1/23 IR3S 共通科目「サステナビリティ学最前線」
	7/1 ICSS-Asia 国際運営委員会第一回会合(タイ・アジア工科大学) 7/4 第3回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸) 7/6 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部) 7/28-29 IR3S 教育担当者会議	2月 IR3Sシンポジウム
8月	8/7 ICAS第二部門研究会議 8/20 ICAS第三部門研究会議 8/22-30 国際演習(タイ)	3月 第3回 ICAS 学生サステナ・フォーラム

*網掛けは ICAS が主催する企画です

ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

活動報告

◇ W-Bridge ◇

「W-BRIDGE」とは早稲田大学と株式会社ブリジストンが共催で運営する環境活動支援プロジェクトのことで、Waseda-Bridgestone Initiative for Development of Global Environment の略称です。

このプロジェクトは環境保全において生活者の視点を含めた研究・活動の新たな枠組みを提供することを目的として、「大学」、「企業」、「生活者=地域」の三者が連携して行う取組みに対して支援を行うことが大きな特徴です。W-BRIDGEは「地域に根ざした総合大学」を目指す茨城大学のためにある(!?)といっても過言ではありません。

このたび城里町商工会、および筑西市明野商工会と ICAS が共同で企画するエコをコンセプトにしたまちづくり事業が W-BRIDGE の新規委託事業に見事、採択されました！これまでの「いばらき地域サステナ・ワークショップ」などの地域交流の実績が高く評価されたと予想されます。このワークショップで地域の方々と議論してきた地域サステナビリティの構想が一步実現に近づいたと言ってもよいでしょう。

活動事業名は「地域連携が生み出すいばらきエコ・ネットワークによるまちづくり」です。W-BRIDGE による支援期間は 1 年間。今後、城里町や筑西市明野地区を中心にさまざまなエコに関する取組みが展開される予定です。ICAS はそのような地域が交流できるようなプラットフォームの役割を担っていきます。

W-BRIDGE のホームページはこちら

<http://www.w-bridge.jp/>

W-BRIDGE

新コーナー

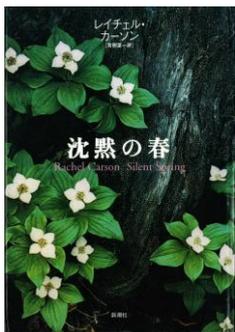
◆ みんなのエコソフィー -1- ◆



地球の持続可能をめざして活動している皆さん。中には今まで出会うことなかった異分野の人が隣にいて一緒に一つのことに取り組んでいる方も多くいらっしゃるでしょう。研究、企業活動、政治、家庭、たずさわることさまざまの、年齢も 0 歳から上限無しの人たち、そのあなたや私が、何か行動を起こす時のよりどころとする基本の世界観、それがエコソフィーです。このコーナーでは、理系文系・年齢・職業等異なるみんなはどんなエコソフィーを持っているの? ということで、次回からいろいろなエコソフィーを紹介していきます。

◆ 本の紹介 ◆

沈黙の春 レイチェル・カーソン 1962 年



今から 47 年前に出版されたこの本は、除草剤や殺虫剤が思いもよらない広範囲に及ぼす毒性や生態系の破壊を公にし、やがて米政府をも動かし環境保護の運動を世界に広めるきっかけとなりました。本書にある個別の事象は現在では解決されているものが多数ありますが、各章の終わりの筆者の静かな魂の叫びは、これが 50 年近くも前に書かれたものとは思えないほど、現在の我々に向かって発せられている言葉として迫ってきます。美しい文体で書かれている、おススメの一冊です。



メンバー紹介 折笠 志津子 (おりかさしつこ)

ICAS 日立キャンパス
事務スタッフ

うお座 O 型

はじめまして！工学部で ICAS メンバーの方々の事務補助を担当しています、折笠志津子です。

一般企業勤務を経て、縁あって 3 年前から ICAS に加わりました。事務と言っても書類作成や物品の手配という一般的な事から、外国人教員の招聘やシンポジウム事務局など研究機関特有の仕事もあり、内容は様々です。

ICAS に来てから色々初めての経験がありましたが、なかなか興味深い内容が多く、得ることも沢山あります。

また、日々熱心に研究に取り組まれている先生や研究員の方々の姿を見るにつけ、私も自分の出来ることで ICAS の活動に貢献出来れば、と思っています。

(写真：昨年ベトナムシンポにて)

ICAS on MEDIA



ICAS 専任
メンバー

✧ バイオ燃料スイートソルガムの種まきテレビ放映 ✧
ICAS 兼務教員の新田洋司農学部教授が代表の「新バイオ燃料による地域活性化プロジェクト」の研究活動の一環として行われたスイートソルガムの種まきの様子が 7 月 1 日 NHK テレビいばらき 8:45 ニュースで放映されました。

✧ 連載記事「環境異変」についての意見掲載 ✧
共同通信と 46 新聞社が参加した合同企画「環境異変」一年間の報道につての三村信男 ICAS 機関長の意見が 7 月 11 日付茨城新聞に掲載されました。

✧ 茨城新聞連載終了！ ✧
2007 年 6 月開始の茨城新聞連載「茨城大学発持続可能な世界へ」が 8 月 4 日第 103 回を持って連載を終了いたしました。この連載記事をもとに書籍化される予定です。請うご期待。

✧ 『サステナ』第 12 号発刊 ✧
茨城大学が編集責任を担当した IR3S 機関誌『サステナ』第 12 号が 7 月 20 日発行されました。ICAS 事務局 029-228-8787 までご一報くださればお届けいたします。



Editor's Note



夏の茨城大学水戸キャンパス。百合や芙蓉、バラの花が咲き、ツクツクボーシが鳴き始めました。写真は全て水戸キャンパス内での撮影です(前号も)。記事についてのお問い合わせやご要望などお寄せ下さい。MG